

ふるさと歴史アラカルト

江戸時代のエコ!?—岩国の紙とリサイクル—

読み終えたチラシや役目を終えたメモ書き、皆さんはどうしていますか？今回はそんな「紙ごみ」にまつわる江戸時代の岩国のリサイクル事情を紹介しましょう。

紙は江戸時代の初めごろから盛んに生産され、中でも岩国は上質な「岩国紙」の産地として名を馳せました。行政文書から庶民の手紙に至るまで広く用いられ、紙は生活必需品になりましたが、それと同時に不要になった紙（反古紙）も多く出ました。その反古紙の行方は、文化8（1811）年の「御伺控」という史料の中に垣間見ることができま

す。史料には「井上権之助反古相求候内…世上え流布致し候てはいかが敷書面御座候」とあり、井上権之助という人が反古紙を買い求めた際、世間に知られると良くない書類が混ざっていることに気付いたことが分かります。

この事例で注目されるのは、一度使われた紙であっても購入の対象になっている点です。おそらくこの反古紙は

襖や屏風の裏張りに活用されたと思われま

す。しばしば古い襖の中から古文書が発見されるのもこのためです。

また十河多田介が、豆腐町（錦見）の古金屋に置かれた大量の反古紙の中に、外部へ伝わると良くない書類を発見した事例もあります。ここで興味深いのは、反古紙を大量に取り扱う商人が存在していたことです。錦見の古金屋に買い集められた大量の反古紙の大半は、岩国紙の一大産地であった小瀬の紙漉人へ売却され、すき直された後に再び利用されたものと思われま

す。このように江戸時代の岩国では、錦見と小瀬を中心に紙の生産・消費・再利用が行われていました。しかしこれはエコに関心があったからではなく、日々の業務や生活に膨大な量の紙が必要だったからでした。史料からは、こうした需要に対して、リサイクルによって社会を支えた人々の営みの一端がうかがえます。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

※古鉄を売買する商人



▶「御伺控」



▶屏風の裏張りに反古紙が用いられている

7月16日(日)から岩国徴古館で企画展「紙から見える江戸時代の岩国」を開催します。

岩国市 人口・世帯

人口 137,344人 【前月比 - 104人】 男性 65,167人 女性 72,177人

世帯 66,190世帯 【前月比 ±0世帯】 ※外国人人口を含む（平成29年6月1日現在）

交通事故発生件数 5月分事故件数 44件(222件) 死者数 1人(4人) 傷者数 53人(266人)

※高速道路発生分を除く ※（ ）内は平成29年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。 **テレホンサービス ☎231234**

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、広報戦略課広報班へ ☎295016 FAX213337